

# レーザーテック(6920)



# 沿革

1960年

## 有限会社東京ITV研究所を設立

医療用X線テレビカメラ装置の設計・開発を担う松下通信工業（株）の協力会社として有限会社東京ITV研究所を創業



1975年

- 半導体業界に参入し、LSIフォトマスク・ピンホール検査装置を開発・発売 **世界初**

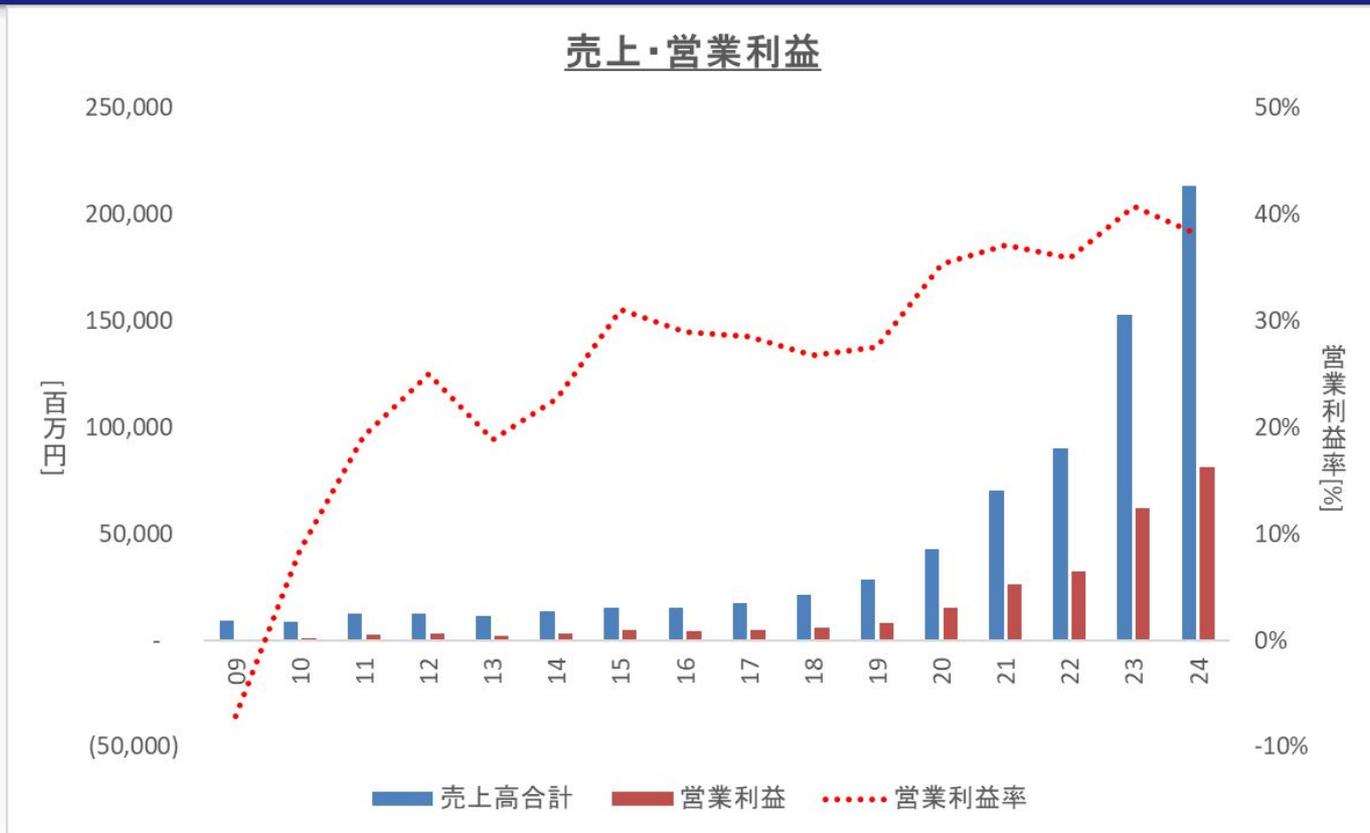


1976年

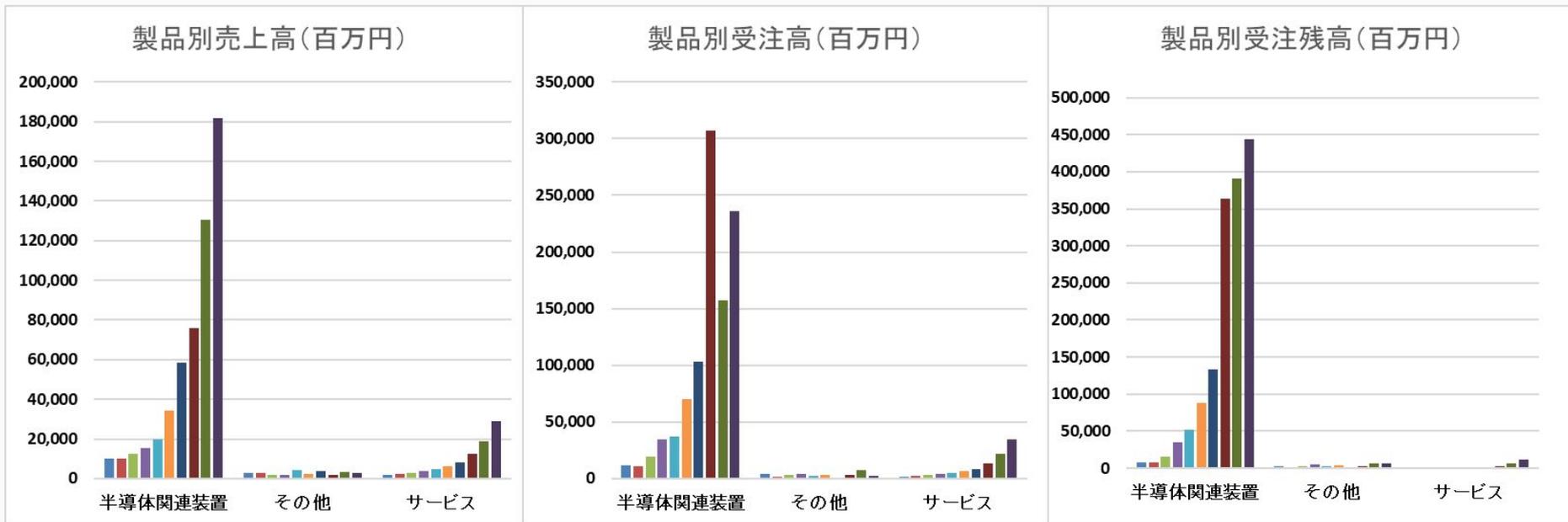
- LSIフォトマスク欠陥検査装置「1MD1」を開発・発売 **世界初**



# 業績推移



# 製品別の動向



■ 15年6月期 ■ 16年6月期 ■ 17年6月期 ■ 18年6月期 ■ 19年6月期  
 ■ 20年6月期 ■ 21年6月期 ■ 22年6月期 ■ 23年6月期 ■ 24年6月期

# 特定の装置が業績を牽引している

## 2024年6月期 製品別業績ハイライト

アクティニックEUVパターンマスク欠陥検査装置ACTISシリーズは、前年を大きく上回る売上高・受注高で好調に推移しました。

売上高

(億円)

受注高

(億円)

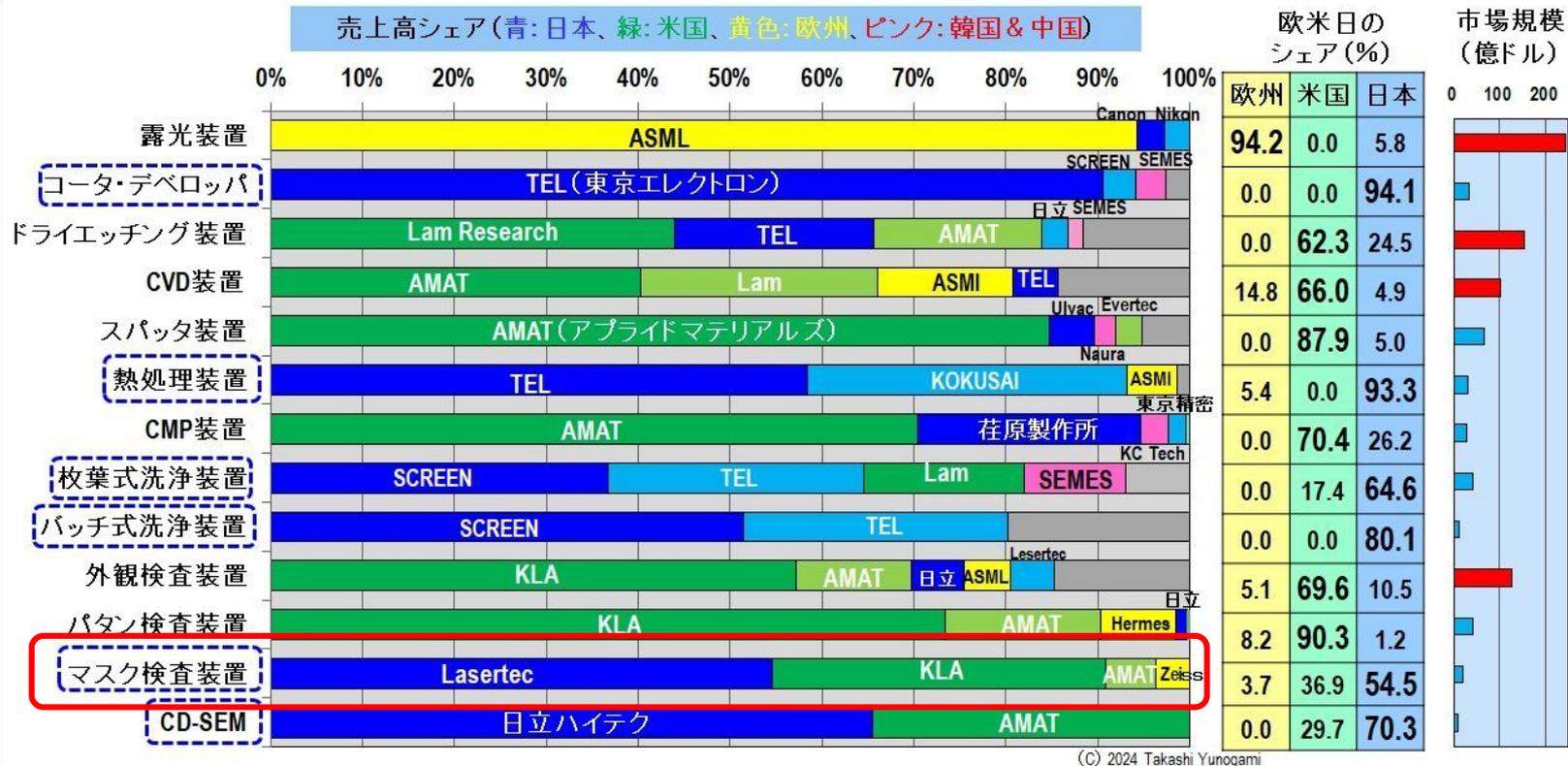


Lasertec

# 業績を牽引するEUV関連の検査装置



# 同じ領域には米企業のKLA



(C) 2024 Takashi Yunogami

# KLAとの比較 広範 VS ニッチ

**レーザーテック 売上: 2,135億円 経常利益: 820億円**

**マスク検査技術**: EUVマスク欠陥検査装置で世界シェア100%

DUVマスク欠陥検査装置で世界シェア80%

マスクブランクス欠陥検査装置で世界シェア70~80%

**迅速な開発力**: 顧客と密接な関係、柔軟な技術対応

※市場規模は、マスクが2500億円超、マスクブランクスが60億円超

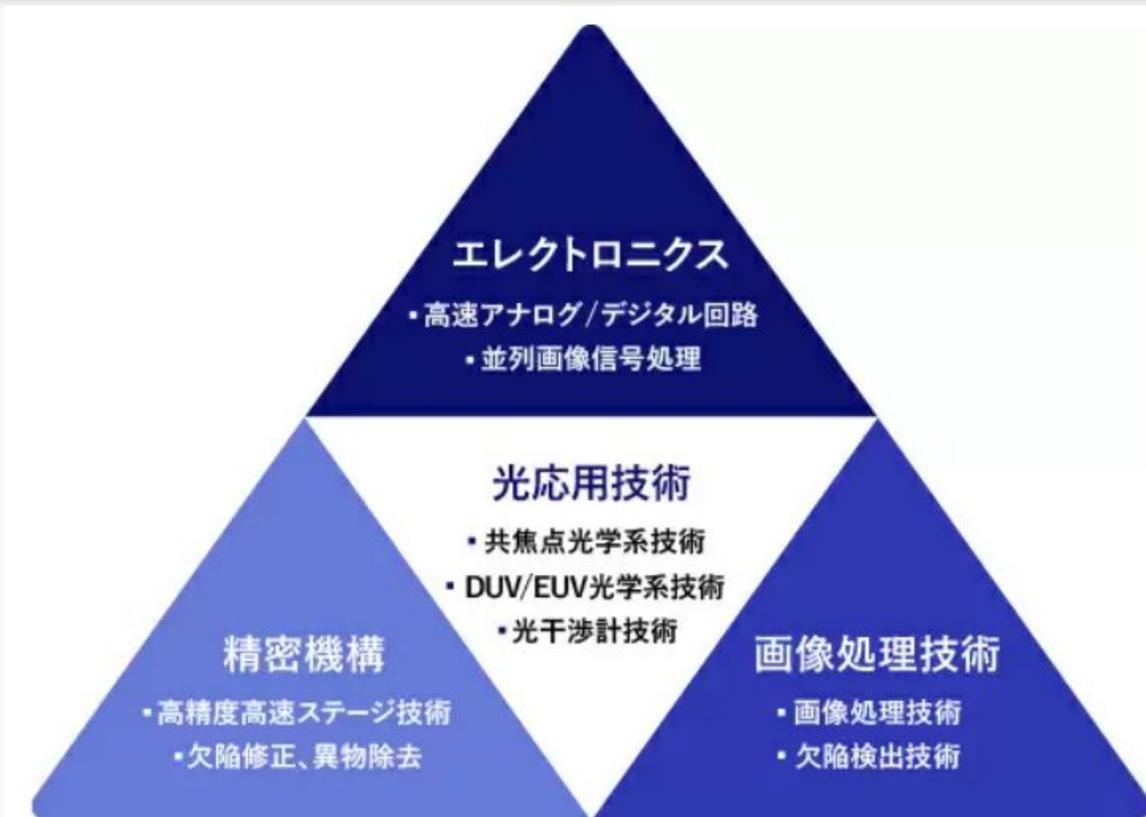
**KLA 売上: \$ 9,812M 経常利益: \$ 2,762M**

**広範な製品ポートフォリオ**: 製造工程全体をカバー

**財務基盤の強さ**: 大規模なR&D投資が可能

※EUV欠陥検査関連の特許数ではレーザーテックに大きく劣後  
(マスク検査領域はKLAからみると小さい)

# コア技術を軸に、周辺技術やアプリケーションとの組み合わせによる製品開発を行ってきた



# 今後の市場規模推移は？

半導体需要の増加



マルチパターンニング

特に先端半導体の需要が増えるほどフォトマスクの需要量は増える

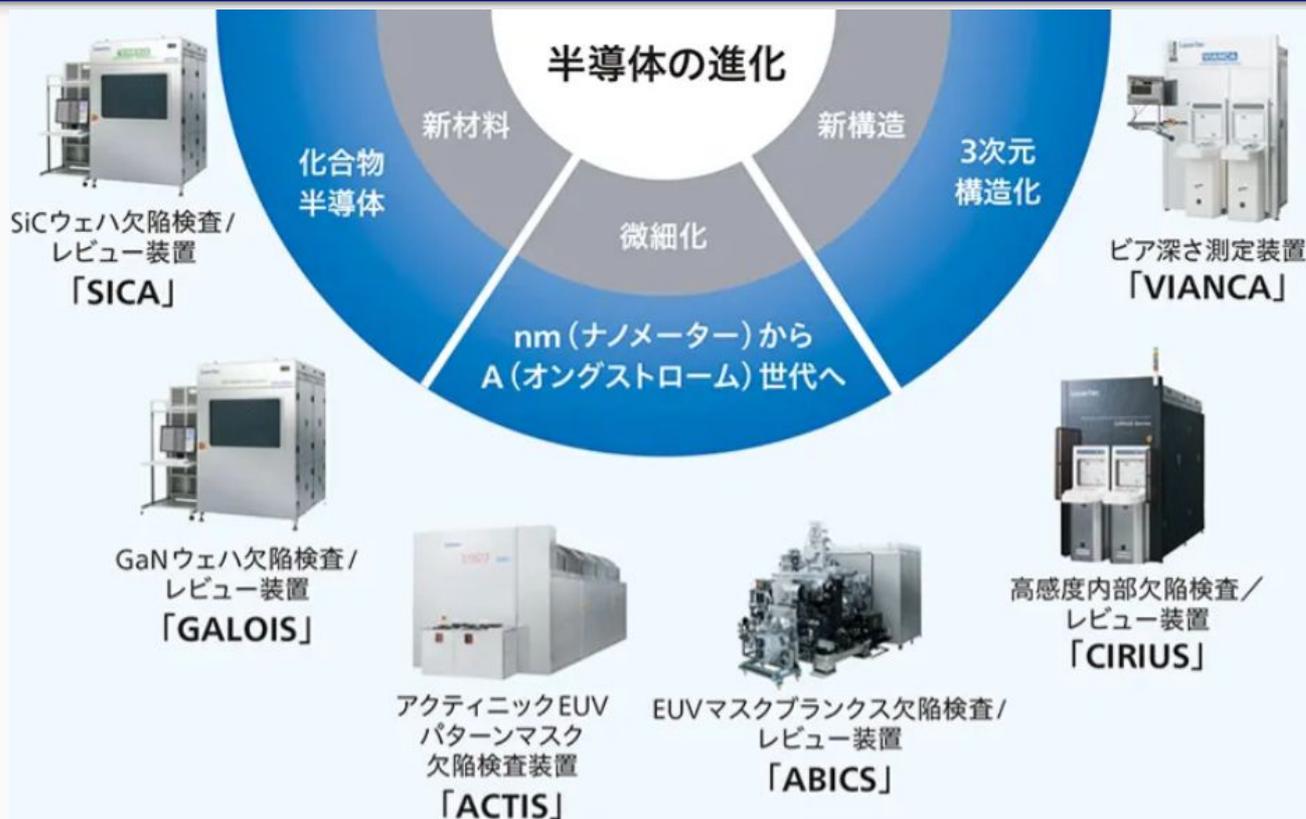


マスク欠陥検査装置の需要も増える

- ・2024年の17億7,875万米ドルから、2030年には30億4,530万米ドルになると予測
- ・予測期間中の年平均成長率は9.38%

Global Information調べ

# 中期経営計画



## 方針

圧倒的な開発スピード、高い技術力、顧客との強固な信頼関係の構築により売上最大化とさらなる成長を目指す

売上最大化に向けたブラッシュアップ

さらなる成長に向けた研究開発の推進と体制づくり

## 施策

- 1 リードタイムの短縮
- 2 サービスビジネスの拡大
- 3 人材採用の強化と職場環境の整備
- 4 新たなソリューションによる事業領域の拡大
- 5 事業規模拡大を支える体制の強化

# ファブライト戦略

# 主力製品の売上・シェア

a) **半導体マスク欠陥検査装置** (MATRICS) : 全マスク検査装置 (ACTIS、BASIC、MZ、MPMを含む) の市場規模 **250,000百万円** 以上に拡大している (同社推定)。同社シェアは現状不明。

b) **マスク blanks 欠陥検査装置** (MAGICS) : 同 **約6,000百万円** (同社推定)、同 **シェア70~80%**、  
EUVマスク blanks 欠陥検査/レビュー装置 ABICS「E120」の市場規模は100億円前後、シェア100%「

c) FPD用マスク欠陥検査装置 : スマートフォン向けなど高精細なFPD用マスク向けの市場規模は2,000~3,000百万円 (同社推定)、同シェア現状不明。